

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
 プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）
 2015 年度研究（経過・成果）報告書

研究代表者	所属部局・職		氏 名				
	文学部・教授		栗田 和明 印				
研究課題	頻繁な移動者がつくる移民コミュニティの研究——環太平洋地域の現況に注目して——						
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2016 年 3 月現在	所属研究機関・部局・職		氏 名				
	立教大学・文学部・教授		栗田 和明				
	立教大学・社会学部・教授		水上 徹男				
	立教大学・観光学部・教授		大橋 健一				
	立教大学・観光学部・教授		杜 国慶				
	立教大学・文学部・教授		市川 誠				
	早稲田大学大学院・ アジア太平洋研究科・教授		ファーラー, グラシア				
研究期間	2015 年度 ～ 2016 年度						
研究経費※	2015 年度		2016 年度		年度		総計
(上段: 支出金額)	3,975,358	円		円		円	3,975,358
(下段: 採択金額)	4,000,000		2,000,000				6,000,000

※1 円単位で記入

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究では、環太平洋地域に形成されている移民社会の動態を比較研究する。本プロジェクト研究では、数週間程度の滞在で頻繁にトランスナショナルな移動を繰り返す「頻繁な移動者」(frequent traveler、以下 FT)を中心に形成される移民コミュニティに注目し、人の移動研究にあらたな研究の視角を提案する。従来からすすめてきた環太平洋地域における移民コミュニティ研究を FT に注目してすすめる。移民コミュニティ研究に居住者からの視点でなく移動する者からの視点を導入する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[移民社会] [頻繁な移動者 (FT)] [環太平洋地域]

研究 **経過・成果** の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究プロジェクトは、テーマとしては 2011～2014 年度の科研費による研究「環太平洋地域における移住者コミュニティの動態の比較研究——近年の変遷に注目して——」(基盤 A 海外研究、代表は栗田) で取り上げた内容をより深化させるものである。また、プロジェクト構成メンバーは立教大学 平和・コミュニティ研究機構(以下、平・コミ)所属の研究者、および前掲の科研プロジェクトに参加のメンバーを中心にしたものである。

従来の研究プロジェクトから継続している要素が大きいものの、本 SFR プロジェクトでは、「頻繁な移動者、FT」により注視している。すなわち、従来は移民社会の研究においても定住している者の視点が中心になりがちであった。これに対して移民コミュニティの要素として FT の重要性を示し、FT の視点からの移民社会の記述を試みている。

プロジェクト研究の開始にあたって、2015 年 7 月 14 日に立教大学で関係者が集まって「移民コミュニティの研究の方法論」と題してオープン・ワークショップを開催した。ここで研究上の視点、具体的な出張計画等を議論した。視点としては FT だけでなく、migration industry、宗教の役割、全方位的な移動、などが議論になった。

各分担者は精力的に現地にでかけてのフィールドワークを実施した。2015 年度に調査を実施した場所、期間、内容について以下に示す。

栗田 2015 年 12 月 20 日～2016 年 1 月 5 日 ヨハネスブルグ (南アフリカ)、カッパーベルト地帯・ルサカ (上記はザンビア)
各地のタンザニア人コミュニティの調査を実施した。

水上 2016 年 2 月 26 日～3 月 3 日 メルボルン (オーストラリア)
日本語補習学校および日本人会を中心に日本人コミュニティの調査を実施した。

市川 調査日程 2015 年 8 月 13 日～9 月 20 日 フィリピン
カトリック修道会が他国から受け入れる修道士・修道士志願者を教育センターなどで調査した。

ファーラー 2016 年 3 月 22 日～3 月 31 日 上海 (中国)
中国から海外への投資移民と留学を促す産業について聞き取り調査を実施した。

大橋 2015 年 11 月 8 日～15 日 ウラジオストク (ロシア)
ウラジオストクにおけるベトナム人コミュニティの調査を行なった。

大橋 2015 年 12 月 23 日～31 日 ハノイ、ニャチャン (ベトナム)
ベトナム＝ロシア間の双方向的な人の移動の実態調査を行なった。

大橋 2016 年 2 月 24 日～29 日 プラハ (チェコ)
プラハにおけるベトナム人コミュニティの調査を実施した。

杜 2016 年 3 月 13～20 日 バンコク (タイ) とペナン (マレーシア)
中国人観光者のタイ旅行とタイ人の日本旅行ツアー宣伝・斡旋について現地調査を実施した。

研究【経過・成果】の概要 つづき

プロジェクト全体の成果のまとめとしては、1)『流動する移民社会——環太平洋を巡る人びと——』の刊行と、2) マレーシア科学大学での国際シンポジウム開催を、いずれも 2016 年 3 月に実施することができた。また、各分担者が個別に発表した成果については次ページを参照いただきたい。

1)『流動する移民社会——環太平洋を巡る人びと——』の刊行。総ページ 170 ページ、編集は栗田、SFR プロジェクト参加メンバー 5 名、その他 1 名が分担執筆して昭和堂で刊行した。執筆者名と章題は以下のとおり。

- 1 章 栗田 和明「移動する者から見た移民コミュニティ——広州へのタンザニア人交易人に注目して——」
1-32 ページ
- 2 章 ファーラー, グラシア「移民とエリート階級の形成——中国人富裕層の国外移住——」33-66 ページ
- 3 章 大橋 健一『リトル・サイゴン』の現在——在外ベトナム人コミュニティの成熟と意味転換——
67-86 ページ
- 4 章 三島 禎子 (SFR プロジェクトメンバー以外)「アフリカ系商人の富裕化への軌跡——ソニンケ人商人の移動と生活の営み——」87-110 ページ
- 5 章 杜 国慶「移民と帰化——日本における帰化人口の分布と時空間変化——」111-136 ページ
- 6 章 市川 誠「フィリピン人移民と宗教——オーストラリアと日本の教会にみる——」137-158 ページ
- 7 章 栗田 和明「移動する人の現状と研究視点——移民の文化への注視——」159-168 ページ

本書の元になる知見は、本 SFR プロジェクトによるものだけでなく、その前段階となる 2011～2014 年度の科研費による調査にも多くを負っている。また、出版自体については助成を平・コミから得ることができた。

2) マレーシア科学大学での国際シンポジウム開催

2016 年 3 月 17～18 日 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON “Migration and Tourism Infrastructures in Global Cities” として開催した。これは平・コミが継続して開催している人の移動に関する国際シンポジウムの一環でもあり、ソウル大 (2013 年)、国立台北大 (2014 年)、に続くものである。環太平洋地域の諸研究機関では移民の研究者も、この話題に関する関心も厚く、こうした研究者・研究機関と連携を深めていく動きが出来つつある。

マレーシアでのシンポジウムの概要と SFR 関係の発表者は以下のとおり。

Co-organised by: Sustainable Tourism Research Cluster, Universiti Sains Malaysia, Penang
and Rikkyo Institute for Peace and Community Studies, Tokyo
Venue: School of Housing Building and Planning, Universiti Sains Malaysia, Penang

- ・Kazuaki KURITA “Dynamic Equilibrium of Immigrants’ Society: A Case of Tanzanian Traders in Guangzhou”
- ・Guoqing DU “Spatial Structure of Inbound Visitors’ Destination by APP Data”
- ・Tetsuo MIZUKAMI “Urban Regeneration Policies and Local Cultural Heritages: A Case of Toshima City in Central Tokyo”

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

Mizukami, Tetsuo. "Urban Regional Developments in Inner City Tokyo: Toshima City Projects and Significant Sites for Local Cultural Heritage." 『社会学研究科年報』 No.23, 2016, pp.7-18.

Ichikawa, Makoto, "Filipino Migrants and Religion: Comparison of Cases in Australia and Japan", 『立教大学教育学科研究年報』 第55号、2016年 (刊行予定)

フアーラー "Migration as Class-based Consumption: the Emigration of the Rich in Contemporary China," China Quarterly, Vol. 224. 2016年 (刊行予定)

② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

栗田 和明 (編) 昭和堂 『流動する移民社会——環太平洋地域を巡る人びと——』 2016年 170ページ 本書には SFR プロジェクト参加者が分担執筆しており、その内容は前ページを参照されたい。

Mizukami, Tetsuo (co-ed.) Creating Social Cohesion in an Interdependent World: Experiences of Australia and Japan. Palgrave Macmillan. 2016. (Co-editor with Ernest HEALY, and Dharma ARUNACHALAM). 2016. 289ページ

杜 国慶「文化ツーリズムと都市観光」菊池俊夫・松村公明 (編著)『よくわかる観光学3 文化ツーリズム学』朝倉書店、2016年 (刊行予定)。

③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)

INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON Migration and Tourism Infrastructures in Global Cities 前ページを参照

④ その他

杜 国慶・澁谷和樹・野津直樹「APP データに見るインバウンド訪問者の空間構造」2016年3月21日、日本地理学会 2016年春季学術大会 (早稲田大学熊谷キャンパス)